

図書館への想い

岡山県立図書館協議会委員
 公益財団法人 操風会 岡山旭東病院 院長

土井 章 弘



岡山県立図書館は来館者数・個人貸出数は14年連続全国1位であり、名実ともに充実している。図書館の充実した地域に生活する人の幸福感が高いとの報告もある。

私が尊敬する教育研究者の大田堯^{たかし}先生は生命の特徴を、「ちがう、かかわる、かわる」と3つに集約されている。「ちがう」とは、一人一人がユニークな存在であり、DNAによる設計図も違っているということ。「かかわる」とは、人は一人では生きていけない。太陽や水など自然と関わって生かされ、同時に両親、兄弟、友人、社会では更に多くの人たちの関わり合いの中で生きていくということ。そして「かわる」ことはエリック・カールの絵本『はらぺこあおむし』に例えている。青虫は葉っぱを食べて大きくなり、蛹^{まごころ}になってさらに美しい蝶々に変身する。人間も文化的・社会的基盤の中で学び、成長していくということ。人が育つための環境整備は教育に携わる人に託されており、その一つが図書館の役目であると思う。読書は、自分が未経験のことを経験させてくれる。偉人の伝記は自身を発憤させ成長させてくれる。文献は

新しいヒント、新しい発見を教えてくれる。古典は古今の英知を学ぶことで自分を変えることができる。図書館は、人類の文化・文明と共に発展してきた。

岡山旭東病院は202床の中小病院であるが、1998年から図書室を開設し、専属の司書を採用して、全国の大学や病院の図書室と連携して運営を行なっている。職員図書室において、2018年は60冊の書籍を登録し、定期購読の雑誌は洋雑誌24誌、和雑誌79誌、計103タイトルを受け入れた。患者様ライブラリーでは、岡山県立図書館からの譲渡や患者様・職員等から多くの本を寄贈いただき、566冊を新規登録した。入院中に書籍や雑誌に触れることは教養を高め、免疫力を高めるのではないかと期待している。

電子化など図書の形態は変わってゆくが、関わり合いの知恵を学ぶ図書館の役割は変わらない。

参考図書

「百歳の遺言」いのちから「教育」を考える 大田堯
 中村桂子著 藤原書店
 「生命のきずな」大田堯著 偕成社